

Title	新規公開会社における資本政策と企業成長
Sub Title	
Author	丸森一寛(Marumori, Kazuhiro) 矢作恒雄
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	1991
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 1991年度経営学 第883号 複写許諾が必要
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001991-0883

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

学生氏名	丸森 一寛	主査	矢作 恒雄
		副査	鈴木 貞彦
			青井 倫一
所属	矢作 恒雄 研究室		

新規公開会社における資本政策と企業成長

近年増加している株式公開のメリットとして、資金調達力の拡大が最も重要であると言われている。しかし、公開時及び公開後の資金調達力の最大化という観点からの、資本政策の研究はあまりなされておらず、実務においても統一的な指針は未だ確立されていない。

本論文においては、株式公開を企業成長を果たすための一手段として位置づけ、それが主に資金調達を通じて企業成長に影響を与えるという立場から、資本政策と企業成長との関係を示すモデル作りをおこない、もって今後より一層の成長をめざして新規公開を予定している会社に対して、何らかの指針を提示するのが目的である。

本論文では新規公開会社にとって資金調達がもっとも重要であり、その調達の巧拙が企業成長に大きな影響を与えると考えた。また、その資金調達においてはエクイティ・ファイナンスが中心になると考え、それを目的とした資本政策の代理変数としてEPSを考えた。

以上の議論から、1980年から4年間に東証2部に新規公開した企業をサンプルとして、企業成長の尺度としての経営利益の伸び率を被説明変数とし資金調達額を説明変数としたモデル式と、資金調達額を被説明変数としEPSを説明変数モデル式について、回帰分析を行った。その結果、資金調達額と経常利益の伸び率との間、及び資金調達額とEPSとの間で有意な相関を見いだすことができた。